



布水だより

No. 15

令和8年3月4日
布水中学校
校長 若狭 朋幸

令和7年度「後期 学校評価アンケート（結果）」と「学校運営協議会（助言）」について

生徒・保護者の皆様には、Google フォームによるアンケートにご回答いただきありがとうございます。アンケート結果および分析を、学校運営協議会（コミュニティスクール）に諮り、結果や分析についてのご意見、改善に向けてのご助言を頂戴しました。これらの結果、ご意見・ご助言を令和8年度の教育活動の改善と具体的な取組の立案・実行に活かしてまいります。

アンケートの回答…①あてはまる ②どちらかというあてはまる ③どちらかというあてはまらない
④あてはまらない ⑤わからない（※⑤は保護者アンケートのみ）

各 符 号 … ① {各重点の目標} ・ {学校運営協議会助言等} ☆ {改善策(次年度に向けて)}

(1) 確かな学力の定着

◎学習指導要領の趣旨に沿い、生徒が学びの広がりや深まりを実感し、自己の変容を自覚できる授業を実践する。

教員『わかる授業、達成感のある授業となるように努めた』（①+②）

R7.7月：100% R7.12月：100% A:95%以上 B:90%以上 C:80%以上 D:80%未満

生徒『学校の授業がわかる』（①+②）

R7.7月：87% R7.12月：86% A:90%以上 B:80%以上 C:70%以上 D:70%未満

保護者『お子さんは、授業がわかりやすいと言っている』（①+②）※「⑤わからない」19%

R7.7月：58% R7.12月：57% A:80%以上 B:70%以上 C:60%以上 D:60%未満

[学校運営協議会]

・研究授業のように大規模に実施すると授業者の負担が大きい。授業者が授業のポイントとなる 10 分程度を事前に示し、その部分を参観できるようにすれば、授業者の心理的負担が軽減され、参観者も空き時間を活用して参観しやすくなるだろう。

☆学校便りやテトルを通じた学校公開・授業参観の案内を一層充実させ、実際に授業をご覧いただく機会を増やしていきます。あわせて、校内研修の活性化や相互授業参観を推進し、教職員同士が学び合う風土を育てます。生徒にとって「わかった」「できた」と実感できる授業となるよう、授業改善に継続して取り組んでまいります。

(2) 豊かな心の育成

◎生徒が自らの良さや成長を実感できるよう、取組の目的・目標を明確にし、質を向上させる。

教員『いじめに対する未然防止の指導や事後指導を丁寧に行った』（①+②）

R7.7月：95% R7.12月：100% A:90%以上 B:80%以上 C:70%以上 D:70%未満

生徒『学校はいじめを許さず、いじめの解決に向けて対応してくれる』（①+②）

R7.7月：92% R7.12月：93% A:90%以上 B:80%以上 C:70%以上 D:70%未満

保護者『学校はいじめの未然防止や早期発見、適切な対応に努めている』（①+②）※「⑤わからない」45%

R7.7月：47% R7.12月：56% A:90%以上 B:80%以上 C:70%以上 D:70%未満

教員『学校行事や生徒会活動が生徒の主体的活動になるよう指導した』（①+②）

R7.7月：98% R7.12月：96% A:85%以上 B:75%以上 C:65%以上 D:65%未満

生徒『学校行事や生徒会活動に積極的に取り組んでいる』（①+②）

R7.7月：88% R7.12月：87% A:90%以上 B:80%以上 C:70%以上 D:70%未満

生徒『自分は学校の一員だと感じている』（①+②）

R7.7月：91% R7.12月：92% A:90%以上 B:80%以上 C:70%以上 D:70%未満

保護者『お子さんは学校行事や生徒会活動に取り組んでいる』（①+②）※「⑤わからない」7%

R7.7月：85% R7.12月：85% A:90%以上 B:80%以上 C:70%以上 D:70%未満

[学校運営協議会]

- ・市教委による『SOS の出し方講座』を受け、保護者や地域の大人が子どもの SOS を受け止められるよう、8 月末に『SOS の受け方講座』を実施した。R8 年度も継続して実施し、子どもの声を自然に受け止められる環境づくりを進めたい。
- ・今の時代、子ども自身が決まりの見直しに関わることが求められている。自分たちで変更を検討することで、責任をもって学校生活に向き合う姿勢が育つ。たとえ決まりが変わらなくても、教師とともに考え、議論する過程に価値がある。
- ☆未然防止について、今年度実施した各学年でのネット関係の外部講師による講演会を継続し、特に SNS に関わるいじめの防止に力を入れていきます。また、生徒自身が SOS を発信する力を育てる指導を進めるとともに、悩みを教師に相談しやすい関係づくりにも取り組みます。
- ☆「学校生活のしおり」の規定見直しを通して、生徒が自分たちの意見を学校生活に反映できることを実感し、自らの在り方を主体的に考える機会を設けていきます。

(3)健全な体の育成

◎生徒が自己の健康と安全への意識と実践力を高めることができるようにする。

教員『部活動に係る活動方針に従って活動している』(①のみ)			
R7.7月:65%	R7.12月:63%	A:80%以上 B:70%以上	C:60%以上 D:60%未満
生徒『部活動に積極的に取り組んでいる』(①+②)			
R7.7月:92%	R7.12月:93%	A:90%以上 B:75%以上 C:60%以上	D:60%未満

[学校運営協議会]

- ・教員の負担軽減のために部活動の地域展開は必要である。一方で、部活動や行事を通して育まれる「非認知能力(意欲・協調性・自己肯定感など、学力では測れない力)」も大切である。もし部活動や行事が縮小・廃止される場合には、この力を育む機会をどのように確保するかを考える必要がある。
- ☆地域展開の動きがある一方で、意欲的に活動に取り組む生徒も多くいます。学校としては、活動時間や休養日に十分配慮しながら、引き続き部活動を行っていきます。

(4)持続可能な学校教育の体制づくり

◎安全安心で愛情あふれる学びがいのある学校づくり、働きがいのある学校づくりを進める。

教員『保護者との連携について意識的に取り組んだ』(①+②)			
R7.7月:95%	R7.12月:95%	A:90%以上 B:80%以上 C:70%以上	D:70%未満
教員『本校の業務改善は進んでいる』(①+②)			
R7.7月:83%	R7.12月:93%	A:90%以上 B:75%以上 C:60%以上	D:60%未満
教員『時間外勤務時間』(月平均時間)			
R7.9月 B(58h)、10月 B(53h)、11月 A(39h)、12月 A(36h) ⇒ 9~12月平均 B(47h)			
A:45h以下 B:60h以下 C:70h以下 D:70hより多い			

[学校運営協議会]

- ・職員の休憩時間に、給食指導や生徒指導が行われているという実態が知られていない可能性がある。
- ・今年度は家庭科調理実習の補助としてボランティアの協力を得ることができた。学校だけで全てを担う時代ではないため、地域の力を積極的に借りながら進めていくことが望ましい。
- ☆前期に寄せられた業務改善に関する意見やアイデアを改めて精査し、次年度に生かせる取組について主任会や分掌部会で検討を進めます。生徒と関わる時間をより多く確保できるよう、業務の見直しに努めてまいります。

◆[自由記述欄]について

アンケートの『自由記述欄』には、30件の記述をいただき、ありがとうございました。ご意見、疑問に思われたこと、感謝のお言葉など様々でした。保護者懇談や改善策(☆)を通して全てに回答できませんでしたが、いただいたご意見等は、より良い学校づくりのための参考とさせていただきます。

子どもたちのよりよい成長のための相談事などございましたら遠慮なくご連絡ください。今後とも、本校の教育活動に、ご理解・ご協力をお願いいたします。

布水中学校のホームページにも学校生活のようすを随時記載していますので、ぜひご覧ください。学校への質問やご意見などがございましたら下記へどうぞ。

連絡先 076-248-0039 (担当 教頭 北川・主幹 東方)
メール fusuityul@ed.city.nonoichi.ishikawa.jp